

科名 消化器科
 対象疾患名 膵がん
 プロトコール名 5-FU持続動注+GEM

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1	2	3	4	5	6	7	8	...	15	16	17	18	19	20	21	22	...	28								
1	点滴注	メイン	グラニセロンバッグ デキサート	1mg 6.6mg	30分かけて	↓										↓																
2	持続注	メイン	フルオロウラシル 生食	1250mgを5日間かけ持続注入 8mL	ポンプ(ニプロシユアフューザSFS-0505D)	—————→																										
3	点滴注	メイン	生食	250mL	ルートキープ											↓								↓								
4	点滴注	側管	生食 デキサート	50mL 6.6mg	30分かけて											↓								↓								
5	点滴注	側管	ゲムシタピン 5%ブドウ糖	1000mg/m ² 100mL	30分かけて											↓								↓								

6 ★1クール=28日

～MEMO～

催吐レベル2(10%以上30%未満)

<フルオロウラシル>

フルオロウラシルは250mg/dayを5日間持続動注。(total1250mg)

ポンプ(ニプロシユアフューザSFS-0505D)にて5FU1250mg(25mL)+生食8mLで調製する。

ポンプには流量精度±10%の誤差が生じるので注意すること。

<ゲムシタピン>

ゲムシタピンは必ず30分で投与(副作用増強防止のため)

禁忌:間質性肺炎、肺線維症のある患者、胸部への放射線療法との併用

血管痛の対処方法:

①静脈炎・血管痛を予防するために以下のことを考慮し、点滴の針を刺す。

- ・血流の良い太い血管をできるだけ使用する。

- ・毎回、できるだけ穿刺部位を変える。

- ・長く留置していた静脈、過去に静脈炎を起こした血管は避ける。

②点滴中は、以下のことを考慮し、投与する。

- ・点滴の入っている腕を予め加温し、血管を温めて広げ、血流を良くする。

- ・メインの生理食塩水の投与量を増やし、より希釈しながら投与する。